Mizuho Daily Market Report

2022/5/4

為替

通貨	アジア終値	NY終値	前日比	前週比*
JPY	130.20	130.14	▲0.02	+2.91
EUR	1.0521	1.0521	+0.0014	▲0.0117
AUD	0.7112	0.7096	+0.0046	▲0.0027
SGD	1.3853	1.3843	▲0.0021	+0.0052
CNY	6.6085	6.6085	+0.0000	+0.0519
MYR	4.3537	4.3538	+0.0000	▲0.0017
THB	34.47	34.51	+0.25	+0.29
IDR	14499	14497	+0	+86
PHP	52.54	52.38	+0.00	+0.11
INR	76.53	76.52	+0.00	▲0.06

金利

国債利回り	終値	前日比	前週比*
米国(10年)	2.971%	▲1.0 bp	+25.1 bp
日本(10年)	0.231%	+0.0 bp	▲1.4 bp
ユーロ圏(10年)	0.965%	▲0.3 bp	+15.0 bp
オーストラリア(5年)	3.197%	+18.0 bp	+31.9 bp
シンガポール(5年)	2.397%	+0.0 bp	▲1.7 bp
中国(5年)	2.637%	+0.0 bp	+3.4 bp
マレーシア(5年)	3.908%	+0.0 bp	+1.1 bp
タイ(5年)	2.386%	+8.6 bp	+7.1 bp
インドネシア(5年)	6.322%	+0.0 bp	+2.1 bp
フィリピン(5年)	5.094%	+0.3 bp	▲12.4 bp
インド(5年)	6.823%	+0.0 bp	+5.5 bp

株

株価指数	終値	前日比	前週比*
DOW(米国)	33,128.79	+0.2%	▲0.3%
N225(日本)	26,818.53	+0.0%	+0.4%
STOXX50(ユーロ圏)	3,761.19	+0.8%	+1.1%
ASX(オーストラリア)	4,186.77	+0.0%	+2.0%
FTSTI(シンガポール)	3,356.90	+0.0%	+1.0%
SSEC(中国)	3,047.06	+0.0%	+5.6%
KLSE(マレーシア)	1,600.43	+0.0%	+0.2%
SETI(タイ)	1,652.29	▲0.9%	▲1.0%
JKSE(インドネシア)	7,228.914	+0.0%	▲0.0%
PSE(フィリピン)	6,721.08	+0.0%	▲3.7%
SENSEX(インド)	56,975.99	+0.0%	▲0.7%

商品

商品スポット・先物	終値	前日比	前週比*
CRB	306.78	▲0.8%	+1.4%
金	1,868.12	+0.3%	▲2.0%
原油(WTI)	102.41	▲2.6%	+0.7%
銅	9,405.75	▲3.7%	▲4.6%

*1週間前の終値と比較

【本日の予想レンジ】			
USD/JPY	129.40	–	131.30
EUR/USD	1.0470	–	1.0620
AUD/USD	0.7030	–	0.7170
USD/SGD	1.3790	–	1.3900
USD/CNY	6.6200	–	6.6950
USD/MYR	4.3430	–	4.3760
USD/THB	34.20	–	34.55
USD/IDR	14430	–	14580
USD/PHP	52.20	–	52.70
USD/INR	76.30	–	77.20

【本日の相場方向感】			
USD/JPY	Bull (2)	<	Bear (4)
USD/SGD	Bull (2)	<	Bear (4)

Contact:
Mizuho Bank, Ltd., Asia & Oceania Treasury Department
Tel: 65-6805-4100

【為替】
29日は各国で連休前の月末ということもあり、月末ﾌﾛｰ主導の相場。ﾄﾞﾙ円はGWで本邦勢不在となる中、朝方の130円台後半から130円ちょうど付近までｱｼﾞｱ時間をかけてじりじりと下落。他通貨も殆どの通貨でﾄﾞﾙ売りが優勢となった。前日の中国共産党中央政治局による景気安定化の方針表明もあって上海株が底堅い推移を見せたこともあり、ｱｼﾞｱ株は総じて堅調だった。海外時間もﾌﾛｰ主導のﾄﾞﾙ売りが継続。米1～3月期雇用ｺｽﾄ指数が予想を大きく上回る前期比+1.4%となったこともあり、米金利が大きく上昇。一方で米国株はｱﾏｿﾞﾝの決算もあり、ﾅｽﾀﾞｯｸが4%安となるなど、ﾊｲﾃｸ中心に大幅安。ただこうした状況にも為替市場の反応は鈍く、ﾄﾞﾙ円は129円台半ばまで下落。ﾄﾞﾙは上値の重い展開が続いた。

5月2日はﾒｰﾃﾞｰのためｱｼﾞｱ、ﾛﾝﾄﾞﾝなど主要市場の多くが休場。週末に発表された中国4月国家統計局非製造業PMI、4月財新製造業PMIの弱い結果を受けて、中国本土不在の中、朝方からｵﾌｼｮｱ人民元の売りが目立ったが他市場への影響は限定的だった。ﾄﾞﾙ円も130円を挟んでもみ合い。米国時間に発表された4月ISM製造業景況指数は予想外に前回から低下したが、目立った反応は無し。その後、特段の材料の無い中で米金利が大きく上昇し、10年金利が一時3.00%に到達。為替市場ではﾄﾞﾙが買われるも、市場参加者の少ない中、大きな動きとはならなかった。

5月3日、ｱｼﾞｱ市場は引き続き主要市場が休場で閑散。豪中銀が市場予想の0.15%を上回る0.25%の利上げを実施し、同国金利、AUDが上昇したが、他市場への影響は限定的。その後の海外時間は翌日に迫ったFOMCを前にﾎﾟｼﾞｼｮﾝ調整主体の相場となり、為替市場も小動き。ﾄﾞﾙ円は130円ちょうど付近の極めて狭いﾚﾝｼﾞでもみ合いとなった。

【金利】
米債利回りは4月28日の2.8%台前半から2.9%台後半まで上昇。前述の通り、米10年金利は29日に米1～3月期雇用ｺｽﾄ指数の上振れを受けて2.9%台に上昇。翌5月2日には米4月ISM製造業景況指数の下振れにもかかわらず、利上げ織り込みの進行から上昇し3%台に到達。3日はFOMCを翌日に控え2.90%～3.00%のﾚﾝｼﾞで上下した。

【予想】
本日はFOMCに注目。ｱｼﾞｱ時間は引き続き、中国及び日本を含む複数の国が休場となり、ｲﾍﾞﾝﾄを前にしたﾎﾟｼﾞｼｮﾝ調整主体の相場となりそう。FOMCは50bpの利上げ+ﾊﾞﾗﾝｽｼｰﾄ縮小(QT)のｱﾅｳﾝｽが市場のｺﾝｾﾝｻｽとなっている模様。一方で6月以降の会合での利上げ幅についてはまだ意見が分かれており、声明文での景気判断やﾊﾟｳｴﾙ議長記者会見の内容に注目が集まる。既に相応の引き締めﾊﾟｽが織り込まれているものの、ﾘｽｸは依然として効派ｻｲﾄﾞか。

【本日の予定】
(日本) 休場 みどりの日
(アジア) 1Q NZ 雇用統計
(アジア) 3月 豪 小売売上高 / 住宅ﾛｰﾝ額
(アジア) 4月 ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ 製造業PMI
(アジア) 4月 ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ 電子産業指数 / 購買部景気指数
(アジア) 4月 ﾀｲ 消費者景気信頼感
(アジア) 4月 ﾍﾞﾄﾅﾑ 製造業PMI
(アジア) 4月 豪 ｻｰﾋﾞｽ業PMI(確)
(アジア) 休場 中国、ﾏﾚｰｼｱ、ﾀｲ
(欧州) 3月 ﾕｰﾛ圏 小売売上高
(欧州) 3月 独 貿易収支
(欧州) 3月 英 消費者信用残高 / 住宅証券融資高 / 住宅ﾛｰﾝ承認件数
(欧州) 4月 ﾕｰﾛ圏 ｻｰﾋﾞｽ業PMI(確)
(欧州) 4月 仏 ｻｰﾋﾞｽ業PMI(確)
(欧州) 4月 独 ｻｰﾋﾞｽ業PMI(確)
(欧州) 独 国債入札(10Y)
(米国) 3月 貿易収支
(米国) 4月 ADP雇用統計
(米国) 4月 ISM非製造業景況指数
(米国) 4月 ｻｰﾋﾞｽ業PMI(確)
(米国) FOMC
(米国) ﾊﾟｳｴﾙFRB議長会見

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありま

せん。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。転送もお控えください。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。